



◆地産地消の推進に成果

問 地産地消のさらなる展開には新たな取り組みが必要で、農家、農協だけでなく、小売業界や消費者など多様な意見を求めています。(青柳)

答 情報交換できるような場づくりを検討したい。

◆地域ブランドについて

問 塩尻の地域ブランドを発信して、塩尻の魅力をPRしていく考えは。(五味)

答 東京都港区「麻布十番」において本市特産品のPRを行っている。本市の知名度、イメージアップを狙いながら観光や交流の振興につなげていく。

◆街道文化について

問 しおじり学びの道ガイドブックが全面改訂された。その本の活用は。(五味)

答 公民館を中心とした学習会や講座、小中学校総合学習の教材としても利用し、地域の魅力を再発見する機会を創出、地域活性化に活かしたい。

◆塩尻東地区ほたる祭り

問 ゲンジボタルの里づくりに対し地域資源として取組んでいく考えは。(五味)

答 地域資源や地域の特色を活かし、その実現に向けた計

画に対し支援していく。

指定管理者
制度の
問題点は

◆洗馬児童館も市の直営で

問 市は洗馬に建設中のふれあいセンター、洗馬児童館両施設を一括、社会福祉協議会に指定管理させるとの考えだが、児童館、児童クラブはこれまで市が直接運営してきた重要な子育て支援事業であり、市内の他の児童館同様に市が運営すべきだ。ふれあいセンターの指定管理者を非公募ですべているが問題はないか。(鈴木)

答 「ふれあいセンター」は従来の老人施設と異なり、地域福祉の拠点施設となる。児童館とふれあいセンターは複合施設であり、地域福祉にノウハウを持つ社会福祉協議会が両施設の一体的、効率的運営が期待できる者であるところから非公募で指定管理者の候補とした。児童館は児童厚生施設について国の基準があ

り、指定管理する場合もこの規定に基づく。市とも密接に連携を図っていく。

◆県中信地区産廃計画

問 県中信地区産廃計画中止による今後の見通しは。(五味)

答 長野県産廃物処理計画によりますと現時点では不足しているとはいえない状況である。更に中信地区松本ブロックでは阿智村に用地取得し阿智村最終処分場を整備していく方針であるので、塩尻地区に公共関係による最終処分場を整備する必要は低い。

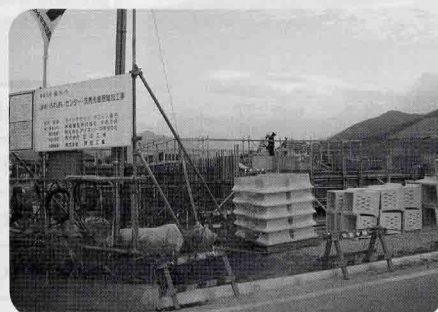
◆産業廃棄物の資源化

問 クリーンセンター焼却量増加は、企業ゴミの分別に原因があると考えられるがなぜ資源化できる物を有効利用しないのか。(中原)

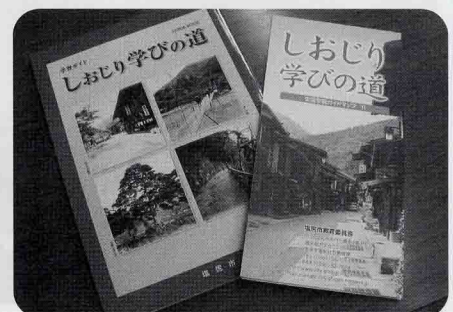
答 企業排出ゴミの中で可燃ゴミは一般可燃物として行政が対応できるが、その他紙類、プラスチック、ペットボトル類は家庭から排出された物は資源物であるが企業排出物は産廃となるため資源化できない。今後研究、検討し有効利用する方向を見い出したい。



事業系のゴミの分別、資源化の研究を



建設の進む
ふれあいセンター・洗馬児童館



今年全面改訂された
「しおじり学びの道ガイドブック」